NIDS 防衛研究所
The National Institute for Defense Studies

# 安全保障や防衛におけるナラティブ

企画部企画調整課　長沼　加寿巳

NIDSコメンタリー
第 155 号　2021 年 1 月 15 日

## 要　旨


- 日米豪印が参加した共同訓練マラバールに関して、米シンクタンクは「豪州のマラバール参加はインド太平洋ナラティブを強化する」との記事を掲載したほか、米専門誌のコラムが中国の影響工作に関して「日本における親中的なナラティブ強化の動向はあまり注目を集めていないが、これは親中的なナラティブが存在していないことを意味するわけではない」と指摘するなど、安全保障の分野でナラティブが注目されている。
- ナラティブとは一般的に「語り手が聞き手に対して意味を伝えるための、ある特定の目的を有する語り」である。
- 安全保障や防衛分野におけるナラティブは、「政策上の目標に対して心理及び認知領域における正当性を付与するように、意図的に作成された物語」である。対象となるオーディエンスを誘導する目的を有し、現在の状況、将来の望ましい状況及びそこへの到達方法を含む。既存の防衛力と組み合わせることで相乗効果を発揮する。
- 国内外の諸情勢に関する先行研究を踏まえれば、「ナラティブ・オブ・バトル」（battle of narratives）や「ナラティブを巡る戦い」（narrative warfare）は、既に始まっているともいえる。
- 2021 年 1 月 13 日に米ホワイトハウスが公開した『インド太平洋のための米国の戦略枠組み』には、「中国による地域的支配は避けられないというナラティブを打破する」（puncture the narrative that Chinese regional domination is inevitable）とある。


## はじめに

2020 年 11 月、インド洋及びアラビア海において日米印による海軍共同訓練マラバールが実施された。今般の演習では、豪海軍が 13 年ぶりに参加するなど、日米豪印、いわゆるクアッドによる協力が進展している。これに関して米国シンクタンク戦略問題研究所は「豪州のマラバール参加はインド太平洋ナラティブを強化する」と題した研究者による記事を掲載し、「マラバールの拡大はインド太平洋における構造化された海洋連合の出現を示すものであり、現状打破勢力たる中国に対峙する防衛・海洋アーキテクチャの出現に向かうだろう」としている[1]。

経済に関する事例としては、2020 年 4 月に経済協力開発機構（OECD）が、政策ペーパー『新型コロナウイルスと国際貿易：論点と行動（COVID-19 and International Trade: Issues and Actions）』を公表している。先行研究によれば、このペーパーには主として 7 点のポイントに焦点を当てたナラティブが含まれていると

[1] Jagannath Panda, “Australia in Malabar Would Strengthen the Indo-Pacific Narrative”, The Center for Strategic International Studies (CSIS), 13 July 2020 [https://amti.csis.org/australia-in-malabar-would-strengthen-the-indo-pacific-narrative/].

される[2]。当該研究を行った外務省幹部は、別のメディアにおいてナラティブの概要を考察している[3]。これによれば、ナラティブは、ある事象や課題について読み手や聞き手の認識に働きかけ行動を変える力を持つという。また、ある目的のために、異なる価値観や利害を抱える対象の同意を求め、説得を試みるべく創作されるものである。ナラティブが主観の押し付けや情緒の垂れ流しではなく、あくまでも共通の言語空間において通じる論理で構築されていなければ、多くの人の認識に訴え行動を変えるのは難しいと指摘する。

一方、ナラティブに関して報じられる際、その多くは国際的に注目される中国の動向に関連する。2020 年 12 月には、近年の中国による影響工作（influence operations）に関して、「日本は中国メディアの影響工作に免疫を持っているのか？」と題したコラムが米専門誌に記載された[4]。この中では日本の研究者が「日本における親中的なナラティブ強化の動向はあまり注目を集めていないが、これは親中的なナラティブが存在していないことを意味するわけではない」と指摘し、中国による情報操作に関して警鐘を鳴らしている。

このように、ナラティブは、近年の外交、安全保障等に場裏において頻繁に登場する用語であるものの、我が国においては必ずしも広く普及している概念ではない。そこで本稿では、このナラティブに注目し、先行研究を参考としつつ概要を確認したうえで、近年の事例を参考として取り上げ、その定義と意義について若干の考察を加えることとしたい。

## なぜ、今、ナラティブが重要なのか？

ナラティブは、時に寓意、語りあるいは物語とも訳されることがあるが、元来、歴史学、哲学、心理学、言語学、社会学といった学問領域において扱われてきたものである。近年の関心の高まりは、政治、経済、外交、安全保障・防衛分野を含む公共政策の場において生起しているいくつかの特徴的な事象に起因するところが大きい。

一例を挙げれば、2016 年の英国による欧州連合（EU）離脱決定及び米国大統領選挙が該当する。前者においては、例えば EU 離脱派が「英国は毎週 EU に 3 億 5,000 万ポンドを支出している」と主張し、BBC が「実際は 1 億 6,000 万ポンドであり、政府支出の 1%を少し上回る程度である」と指摘したにもかかわらず、結果的に国民投票を経て EU 離脱が確定した。一部ではフェイク・ニュースにより誤誘導されたとの指摘もあった[5]。後者においては、トランプ大統領就任式の規模が史上最大と主張したスパイサー報道官の発言が事実と異なっているとのメディアの指摘に対して、コンウェイ大統領顧問が「代わりの事実を述べたまでだ」（gave alternative facts to that）と反論した[6]。当該報道では「事実に関する代わりの解釈」（alternative interpretations of the facts）とするのが適切だと指摘されているところ、後述のとおり、物語に関しては臨床心理学といった特定の分野において「オルタナティブ・ストーリー」（alternative story）が重視されているという指摘がある。

このように情報の誇張や偽情報の流布などが指摘される中にあって、感情的な行動によって大きく政治が動いたことを背景として、英オックスフォード辞典による「今年の言葉」（Word of the Year）では、ポスト・トゥルース（post-truth）が選ばれた[7]。この定義によれば、ポスト・トゥルースとは、「世論形成において、

---

[2] 安部憲明「新型コロナ感染症と世界貿易　OECD のナラティブと当面の国際協調に関する 11 の着眼点」、フラッシュ 461、国際貿易投資研究所、2020 年 5 月 14 日 [http://www.iti.or.jp/flash461.htm]。

[3] 安部憲明「「ナラティブ」とは何か：共通の作戦図面のチカラ」、世界経済評論 IMPACT、2020 年 8 月 17 日 [http://www.world-economic-review.jp/impact/article1848.html]。なお、副題にいう「共通の作戦図面」とは、自衛隊及び米軍用語における「共通状況図」（Common Operational Picture）である。

[4] Maiko Ichihara, “Is Japan Immune From China’s Media Influence Operations?”, *The Diplomat,* 19 December 2020 [https://thediplomat.com/2020/12/is-japan-immune-from-chinas-media-influence-operations/].

[5] “Fake news handed Brexiteers the referendum – and now they have no idea what they're doing”, The Independent, 18 January 2017 [https://www.independent.co.uk/voices/michael-gove-boris-johnson-brexit-eurosceptic-press-theresa-may-a7533806.html].

[6] “Fact check: The controversy over Trump's inauguration crowd size”, USA TODAY, 24 January 2014 [https://www.usatoday.com/story/news/politics/2017/01/24/fact-check-inauguration-crowd-size/96984496/].

[7] “‘Post-truth’ declared word of the year by Oxford Dictionaries”, BBC, 16 November 2016 [https://www.bbc.com/news/uk-

感情や個人的な信念に訴えるよりも客観的事実の影響力が少ない状況」を意味する[8]。自己の感情や個人的信念が客観的な事実に優先した結果として、人々が発する情報、考え方や態度が、本稿で取り上げるナラティブを形成するのである[9]。

行動経済学においても、ナラティブは注目されている。フォーブズ誌によれば、ノーベル経済学賞を受賞した米イェール大学のロバート・シラー教授は、ナラティブの持つパワーを理解することは経済の好況と不況を理解することであり、危機が悪化することを防ぐことになると述べている[10]。シラーは「人間の脳は支出や投資といった進行中の基本的な行動を正当化するために、それが事実であろうとなかろうと、常にナラティブに合わせてきている」とし、「ナラティブは『バイラル』となり世界中にまで広がり、経済的インパクトをもたらす」とする。その文脈で、シラーは世界恐慌に際してもバイラルなナラティブが拡大したと指摘する。成功するのは想像力を捉えるナラティブである。リーダーとして、自国、自社あるいは自身の業界において広がっているストーリーを好まないかもしれないが、人々の振舞いの根底にある心理学的な力を理解すれば、成功につながるようなカウンターナラティブを提供するよりよい機会に恵まれることとなるのである。

また、安全保障の観点からは、ナラティブの戦い、「バトル・オブ・ナラティブ」（battle of narratives）に対する関心が高まっている。先行研究によれば、2014 年のイスラエルによるガザ侵攻及びＩＳによるシリア及びイラク北部での勢力拡大に際して「バトル・オブ・ナラティブ」の優劣が地上戦と密接に結びついていたとされる[11]。また、2014 年のロシアによるウクライナ侵攻及びクリミア併合に際して、クリミア半島のロシア系住民が多く居住する地域において、「ウクライナでロシア系住民が抑圧されている」といった偽情報が流布し、非ロシア系住民及び地方政府に対する過激な言動やロシアの介入を正当化するような動きが確認されている。

このように、政治、経済、外交、安全保障・防衛分野における近年の動きは、ナラティブの有する特性を抜きにして動向を分析することが困難となりつつあることを示している。そこで、次にナラティブを含む物語に関する諸研究について、これまでの先行研究を手掛かりに概要を確認する。

## ナラティブに関する諸研究

### （1）ナラティブを含む物語に関する諸研究

それではこのようなナラティブを含む物語を、既存の研究はどのように捉えているのであろうか。ここでは京都大学の研究グループによる先行研究を参考にしながら、その概要を確認する[12]。

文芸批評においては、文学や神話等の物語を評論するところ、レヴィ・ストロースやロラン・バルトは社会そのものについて積極的により深い理解を得ようとした。例えばバルトは『神話作用』において、可能性を覆い隠すことで自然性を装うとする神話という物語の力を分析の対象とした。つまり、無意識のうちに信じ込まされている神話を暴こうとする企てである[13]。バルトは、神話が有する意味作用に関連して、読者が神話を価

37995600].

[8] Lee McIntyre, *Post-Truth* (Cambridge, MA: MIT Press, 2018), c

[9] なお 2015 年の「今年の言葉」は絵文字（face with tears of joy emoji）であり、これも感情の表出に関連する言葉であった。“Oxford Dictionaries Word of the Year is the tears of joy emoji”, BBC, 17 November 2015 [https://www.bbc.com/news/newsbeat-34840926].

[10] Carmine Gallo, “A Nobel Prize-Winning Economist Explains How Ideas Go Viral”, Forbes, 26 January 2018 [https://www.forbes.com/sites/carminegallo/2018/01/26/a-nobel-prize-winning-economist-explains-how-ideas-go-viral/].

[11] 髙木耕一郎「新領域から『バトル・オブ・ナラティブ』へ――新領域（宇宙、サイバー、電磁波）、心理・認知領域含む多次元環境下における将来戦」、戦略研究学会編『戦略研究 27　多次元環境下の戦略』芙蓉書房出版、2020 年、49–71 頁。

[12] 藤井聡、長谷川大貴、中野剛志、羽鳥剛史「『物語』に関わる人文社会科学の系譜とその公共政策的意義」『土木学会論文集Ｆ５（土木技術者実践）』第 67 巻第 1 号、2011 年、32–45 頁。

[13] 石川美子『ロラン・バルト』中央公論新社、2015 年、53–58 頁。

値の体系ではなく、事実の体系と取り違える点を指摘する[14]。

心理学においてはジェローム・ブルーナーが人間の思考及び認識形式には、「パラディグマティック・モード」（論理実証モード）と「ナラティブ・モード」（物語モード）があることを指摘している[15]。前者は論理・科学的なものであり、一般的な諸原因と立証を扱い、証明可能な指示的意味を確実にし、経験的真理を吟味する諸手続を利用する。他方、後者はみごとなストーリー、人の心をひきつけるドラマ、必ずしも真実ではないにしても信ずるに足る歴史的説明などをもたらすものであり、人間のあるいは人間風の意図及び行為やその成りゆきを示す変転や帰結を問題とする。ブルーナーはナラティブの特性について、構成要素の意味がプロット（筋書き）や寓話の中で決まること、ストーリーとしての力を失わずに事実上のことにでも想像上のことにでもなり得る、つまり、個々のセンテンスの真実と偽りよりも時系列性が総体的形態やプロットを決めることを指摘する[16]。

また、論理実証モードの題材は真理である一方、ナラティブ・モードの題材は意味であると指摘する別の研究もある[17]。これによればナラティブの筋書きは、定常状態、その状態の破損、危機到来及びその修復の試み（あるいは状況説明、問題発生及び対応・解決）といった段階を経る。この危機が自覚を促すのは、話者の重視する価値、正統性及び規範である。ナラティブは、実在性を主観化する特徴を有しており、登場人物や語り手の主観的な叙述も独自の実在性の叙述として呈示する。また、歴史とナラティブの観点からは、過度にナラティブ化された歴史の危険性に対する批判意識を持たない場合、ナラティブとして語られる歴史が様々なイデオロギーの運び手や貯蔵庫になるのみならず、それ自体がイデオロギーとなってしまうとされる[18]。

なお、ブルーナーに先行して科学と物語をより先鋭的に対比させていたのは、『ポスト・モダンの条件』における「大きな物語」論で著名なリオタールである[19]。同著でリオタールは「科学と物語とは、元来、絶えざる葛藤にある」とし、科学的知は物語的知と絶えず競い合い、対立し合ってきたとすると明言する。そして、「科学の側の判断基準に照らせば、物語の大部分は単なる寓話に過ぎない」が、「科学が単に有用な規則性を言表することにとどまらず、真なるものを探究するものでもある限りは、科学はみずからのゲーム規則を正当化しなければならない。すなわち、科学はみずからのステータスを正当化する言説を必要とし、その言説は哲学という名で呼ばれてきた」と指摘する。科学が神話・民話や説話より優位に立とうとするならば、自らこそが真理の探究者であり他はそうではないのだという正当化の言説が必要となるところ、このような思想についてリオタールは「大きな物語」と呼んだのである[20]。

このほか、シャンクやエイベルソンは、記憶における物語の役割を論じた際、物語の抽象化の過程で抜け落ちた部分が、物語によって伝えたい感情や内容に合致するように構成されることがあり、こうして構成された事実に関する記憶がしばしば当の事実と必ずしも一致しないという事態が生じる点を指摘する。また、物語を規定する信念も個々の物語によって正当化され、物語と信念が循環する関係にならざるをえないとする[21]。

さらにミラーによれば、物語は社会やコミュニティで共有され、個々人が新たな出来事や知識を解釈するための起点となる。また、物語は簡潔な表現と結びつくことで、物や行動、しきたりが見出しの役割を果たし、

---

14 ロラン・バルト著、篠沢秀夫訳『神話作用』現代思潮新社、1967 年、170–171 頁。

15 ジェローム・ブルーナー著、田中一彦訳『可能世界の心理』みすず書房、1998 年、16–22 頁。

16 ジェローム・ブルーナー著、岡本夏木、仲渡一美、吉村啓子訳『意味の復権–フォークサイコロジーに向けて–』ミネルヴァ書房、1999 年、61–67 頁。

17 柳瀬陽介「なぜ物語は実践研究にとって重要なのか—読者・利用者による一般化可能性」『言語文化教育研究』第 16 巻、2018 年、12–32 頁。

18 Hayden White, *The Practical Past* (Evanston, IL: Northwestern University Press, 2014), pp. 81–82, 94. また、柳瀬陽介ブログ「英語教育の哲学的研究２」、2018 年 3 月 1 日付記事を参照 [http://yanaseyosuke.blogspot.com/2018/03/2017-hayden-white-2014-practical-past.html]。

19 ジャン＝フランソワ・リオタール著、小林康夫訳『ポスト・モダンの条件』水声社、1986 年、7–8 頁。

20 石毛弓「リオタールの大きな物語と小さな物語—概念の定義とその発展の可能性について」『竜谷哲学論集』第 21 号、2007 年、53–76 頁。

21 Roger C. Schank, Robert P. Abelson, “Knowledge and memory: The real story”, Robert S. Wyer Jr. (ed.), *Knowledge and Memory: The Real Story* (Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Inc, 1995), pp. 1–85.

伝える機能や記憶を強化する機能を果たすため、国旗や国歌やシンボルマークなどは、国の物語にとって何が重要で何が重要でないかを表すとされる[22]。

解釈学においては、シュライエルマッハーが、話し手の生の表現とそれに対する聞き手の理解を通じて、両者の間に共感的な理解が達成されると述べる[23]。ディルタイは、解釈者が話し手の心理に入り込みその経験を追体験・追構成することで、話し手の意図と精神を理解するとし、個人間で成立する共同性が確認できるとする[24]。リクールはソシュールの業績として、ラングとしての言語とパロールとしての言語を根本的に峻別した点を挙げつつ、仮にパロールが科学的に記述されたとしても、音響学、生理学、社会学、意味変化の歴史などを含む多様な科学に分類されるとして、対話におけるパロールの重要性を強調する[25]。そして、私の経験があなたの経験になることができないにもかかわらず、生の或る領域から他の領域へ移行される何かがあり、これこそが経験そのものではなく経験の意味であるとする。実経験、生の経験は私的なものとして残る一方、その意義、意味は、公的なものとなると指摘するのである[26]。

臨床心理学及び臨床社会学においては、心理療法を行うセラピストとクライアントとのとの間でナラティブが活用されている[27]。特に、セラピストがクライアントとの会話を繰り返すことで、クライアントが信じている自己物語（ドミナント・ストーリー）とは異なる物語（オルタナティブ・ストーリー）を見出し、前者から後者への転換を促していくことで問題解決を図ろうとする。

最近ではメディア論と政治学の関係でも、物語を語る行為（ストーリー・テリング）について研究が進んでいる。英カーディフ大学のカリン・ウォール=ヨルゲンセン教授は、近著でメディアが仲立ちする感情と政治学の関係性について論じている[28]。当該研究によれば、個人的なストーリーを公に語ることを通じた感情の共有は、真正性を保証するとともに共感を育む手段とみなされる。強力な感情の共鳴をもたらす語りは真正なものとして構築され、共感に基づく連帯を生み出し得るとされ、政治指導者も普通の人々も同様であるとする[29]。このように個人的経験をめぐる語りが共感を生み出す力を持つのは、苦痛、恐怖、幸福、愛情のいずれであれ、他者が理解可能な感情の物語に関連付けることで、我々の周囲で展開する大小の出来事をドラマチックにするからである[30]。そして、ソーシャル・ネットワーク・サービスの普及もあり、個人による語りを通じた共感の動員は、主流メディア組織の専売特許ではなくなり、デジタル時代の到来及びソーシャルメディア台頭がボトムアップ型のハイブリッド形式のストーリーの語り方が生まれる広範かつ多様な機会を切り開いたと指摘する[31]。

このように、ナラティブを含む物語に関する諸研究は様々である。次項では、本稿が中心的に取り上げる国際関係論、安全保障、防衛・軍事分野におけるナラティブについて、先行研究等の動向を概観することとする。

### （２）国際関係論、安全保障、防衛・軍事分野におけるナラティブ

国際関係論においては、ミスキモン、オローリン及びロセルがナラティブについて論じている[32]。この中でナラティブを、人間関係の中心であり、世界を形成し振舞いを制約するものとする。また、政治的主体はナラ

---

22 Peggy J. Miller, “Personal storytelling in everyday life: Social and cultural perspectives”, ibid., pp. 177–184.
23 シュライエルマッハー著、久野昭、天野雅郎訳『解釈学の構想』以文社、1984 年。
24 ディルタイ著、久野昭訳『解釈学の成立』改訂版、以文社、1981 年。
25 ポール・リクール著、牧内勝訳『解釈の理論–言述と意味の余剰–』ヨルダン社、1993 年、17–18 頁。
26 同上、37–38 頁。
27 例えば、次を参照。やまだようこ編著『質的心理学の方法–語りをきく』新曜社、2007 年。野口裕二編著『ナラティヴ・アプローチ』勁草書房、2009 年。
28 Karin Wahl-Jorgensen, *Emotions, Media and Politics* (Cambridge, UK & Medford, MA: Polity Press, 2018). カリン・ウォール＝ヨルゲンセン著、三谷文栄、山腰修三訳『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020 年も合わせて参照。
29 Ibid., pp. 66, 67.
30 Ibid., p. 77.
31 Ibid., p. 81.
32 Alister Miskimmon, Ben O’Loughlin, and Laura Roselle, *Strategic Narratives: Communication Power and the New World Order* (New York and London: Routledge, 2013), pp. 1–8.

ティブを戦略的に使用しようと試みるほか、どのようにナラティブがやりとりされ流れていくのかにコミュニケーション環境が根本的に影響するとする。

特に戦略的ナラティブは、国内外の主体の振舞いを形成する国際政治の過去・現在・未来の共有された意味を、政治的主体が構築するための手段であり、自己の影響力を拡大し、期待を管理し、言説環境を変更するためのツールであるとする。これは状態やシステムそのものに関するナラティブであり、我々が何者であり、どのような種類の秩序を望むのかという点に関するナラティブでもある。また長期的には、自己のナラティブに国内外の他者から同意を得ることで、他者の利益、同一性及びどのように国際関係は機能しどこに向かうのかに関する理解を形成することができるとする。

| | 定　　義 |
|---|---|
| **ナラティブ（一般的な定義）** | **○　人間関係の中心であり、世界（観）を形成し、振舞いを制約する。**<br>**○　政治的主体は、ナラティブを戦略的に使用しようと試みる。**<br>**○　コミュニケーション環境は、どのようにナラティブがやりとりされ、流れていくのかに根本的に影響する。** |
| **戦略的ナラティブ（政治的主体）** | **○　国内外の主体の振舞いを形成する国際政治において、過去・現在・未来に関して共有される意味を、政治的主体が構築するための手段。**<br>**○　利益と到達点、エンド・ステートとそこに至る方法を示唆する。**<br>**○　自己の影響力を拡大し、期待を管理し、言説環境を変更するためのツール。**<br>**○　システムや秩序、同一性、論点という観点から分類が可能。** |

図 1：国際関係論におけるナラティブの定義の一例

Alister Miskimmon, Ben O'Loughlin, and Laura Roselle, *Strategic Narratives: Communication Power and the New World Order* (New York and London: Routledge, 2013), pp. 1–8 を参考に、筆者が作成（下線部は筆者による）。

また、国際的な主体に関するナラティブが国際システムにおける振舞いに関する期待を構成する一方で、国民や国家によるナラティブには、自国の国際システムにおける立ち位置を叙述するよりもむしろ、自国そのものに注意を当てるものもある。こうして国家の同一性や役割もナラティブの主体に関連するのである。

戦略的ナラティブは、出来事や同一性のシークエンスを表すものであり、政治的主体、たいていはエリートが政治目標を達成すべく過去・現在・未来に対して決められた意味を付与することを試みるためのコミュニケーション・ツールである。極めて重要なのは、戦略的ナラティブが、利益と到達点を統合すること、すなわち、エンド・ステートとどのようにそこに至るのかを示唆するということである。

また、ナラティブは、時間的側面と活動の意味合いという点で、ディスコース（言説）及びフレーム（認識の枠組み）とは異なると指摘する。ナラティブはリーダーがディスコースやフレームから作り出すため、オーディエンス（聴衆）を未来に向けさせることが可能である。ディスコースはコミュニケーションの原材料、つまり、主体がナラティブに織り込むような科学、法律、歴史及び神学に関する知識の集合体である。ディスコースは、ナラティブのように、主体を現状維持から別の状態へ移行させる因果的な転換という特徴を持たず、ナラティブの構成上の効果をもたらすに過ぎない。歴史、類比、隠喩、シンボル及びイメージは、ナラティブを誘発し形成し得る。

フレームは、特定の解釈、評価あるいは解決を推進するために出来事や論点のある側面を選択し、強調し、その間の結びつきを作る行為であり、政治的リーダー、ジャーナリストやその他のエリートにより実行されるものであり、特に世論形成と関連している。フレームはディスコースと同様に、ナラティブが必ず有する時間的及び因果関係に関連する特徴を有していない。あるニュースがある方法である出来事を形作る（フレームす

る）ことはあるものの、必ずしも過去の因果関係や将来の結果を導くわけではない。ただし、ナラティブの持つ様々な内容は、ある方法で形作られる（フレームされる）ため、この点を考慮に入れなければならないのである。

| | ナラティブ、ディスコース及びフレームの有する性質上の相違点 |
|---|---|
| ナラティブ | ○ ナラティブはリーダーがディスコースやフレームから作り出す。<br>○ 歴史、類比、隠喩、シンボル及びイメージは、ナラティブを誘発し形成しうる。<br>○ 時間的及び因果関係に関連する特徴あり。 |
| ディスコース（言　説） | ○ ディスコースはコミュニケーションの原材料、主体がナラティブに織り込むような科学、法律、歴史及び神学に関する知識の集合体。<br>○ 主体を現状維持から別の状態へ移行させるような因果関係に関する変換という特徴がない。ナラティブの構成上の効果をもたらすに過ぎない。<br>○ 時間的及び因果関係に関連する特徴なし。 |
| フレーム（認識枠組み） | ○ 特定の解釈、評価あるいは解決を推進するために出来事や論点のある側面を選択し、強調し、その間の結びつきを作る行為。<br>○ 政治的リーダー、ジャーナリストやその他のエリートにより実行されるものであり、特に世論形成と関連している。<br>○ 時間的及び因果関係に関連する特徴なし。 |

図 2：ナラティブ、ディスコース及びフレームの有する性質上の相違点

Alister Miskimmon, Ben O'Loughlin, and Laura Roselle, *Strategic Narratives: Communication Power and the New World Order* (New York and London: Routledge, 2013), p. 7 を参考に、筆者が作成（下線部は筆者による）。

それでは、安全保障、防衛・軍事分野でのナラティブはどのように定義されるであろうか。ここではまず、北大西洋条約機構（NATO）の戦略的コミュニケーション研究センターが作成した用語集を参考としたい[33]。これによれば、ナラティブとは「ストーリーから引き出された寓意」とする一方、ストーリーとは、「時間的、空間的、及び因果関係に関連する一連の出来事」とする。なお、上記の国際関係論においても取り上げられたディスコース（言説）は「議論を制約し世界観を形成するような容認された立場、コミュニケーションを通じて創造され維持されるもの」としている[34]。

また、これらの基底にある行動の型であるスクリプトについては、「経験と理想化によって形作られた期待から成るパターン」としている。これらを短期、中期及び長期の時間軸で比較しつつ整理すると、図 3 のとおりとなる。

こうして、寓意としてのナラティブや議論を拘束し世界観を形成するような立場を意味するディスコースは短期的にも長期的にも維持される一方、出来事の連なりとしてのストーリーは伝説あるいは神話に、期待行動の集合から成るパターンを意味するスクリプトは、伝統や慣習へと発展する。ここで見たナラティブは、寓意の側面が強調されている。これは、上述のブルーナーによるナラティブ・モードの定義において、意味論的な重要性が強調されている点と共通しているといえる。

[33] Neville Bolt, Leonie Haiden, *Improving NATO Strategic Communications Terminology* (Riga: NATO Strategic Communications Centre of Excellence, 2019).

[34] なお、心理学におけるディスコース及びナラティブの関係性については次著を参照。能智正博「質的研究におけるナラティヴとディスコース」、鈴木聡志、大橋靖史、能智正博編著『ディスコースの心理学』ミネルヴァ書房、2015 年、3–24 頁。

| | 短　期 | 中　期 | 長　期 |
|---|---|---|---|
| 寓　意 | ナラティブ<br>(narrative) | ナラティブ<br>(narrative) | ナラティブ<br>(narrative) |
| 出来事 | 出来事、ストーリー<br>(event, story) | ストーリー<br>(story) | 伝説、神話<br>(legend, myth) |
| 立　場 | ディスコース、会話<br>(discourse, conversation) | ディスコース<br>(discourse) | ディスコース<br>(discourse) |
| 期待パターン | スクリプト<br>(script) | スクリプト、伝統、慣習<br>(script, tradition, custom) | 伝統、慣習<br>(tradition, custom) |

図 3：ナラティブ、ストーリー等の時間軸に基づく整理

Neville Bolt, Leonie Haiden, *Improving NATO Strategic Communications Terminology* (Riga: NATO Strategic Communications Centre of Excellence, 2019), p. 56 を参考に、筆者が一部加筆し作成。

また、英国防省は戦略的コミュニケーションに関する統合ドクトリンにおいて、戦略的ナラティブを「政策目標のために感情面での正当性を提供するようデザインされたストーリー」と定義している[35]。ここで述べている政策とは「将来の状態への移行か現在の状況の維持（目的）」であり、戦略とは「その状態へ到達するための計画（目的達成のための手段の利用）」であるとする。そこで、ナラティブは、「なぜなのか？」という考えを提示し、非常に主観的ともなり得る正当性を行動に提供するのである。

そして、上述の「バトル・オブ・ナラティブ」に関する先行研究では、ナラティブについて、英シンクタンクによる報告書を引用しつつ、「特定のイデオロギー、理論、信念に基づき、一定の目的に従って物事を説明するもの」であり、「標的とする聴衆の文化や歴史を踏まえ、聴衆の共感を呼び、その心理に訴えかけることにより、戦略的な目的を達成するように表現されたもの」としている[36]。

以上を踏まえて、次項ではここまで概観したナラティブの特徴について、近年の事例を取り上げつつ、整理する。

## ナラティブの特徴

### （1）ナラティブは論理実証を補完する

ブルーナーによる論理実証とナラティブの２つのモードは、同じ対象を見る際の別々のモードであって相補的である。言い換えれば、ナラティブが論理実証を補完するのであり、その逆もまた然りである。このようなモード転換は常続的に行われているとみられるところ、平素、情報に接する者は、語られるものが論理実証的なものかナラティブなのか、意識する必要に迫られるということになる。

一般的には、科学的根拠を伴う情報がナラティブに優るようにも思える。しかしながら、近年の国際的な場裏において、ナラティブが科学的主張に対してより優位に立った出来事も散見される。

例えば、2013 年に富士山がユネスコ世界遺産に登録された際、同時に構成資産となった三保松原については、当初諮問機関が「45 キロ離れており、山の一部として考慮できない」（論理実証モード）と述べ、除外を勧告していた[37]。これに対して日本政府は、三保の松原からの富士山が、山・松・浜・海という富士山を表す

35 The United Kingdom Ministry of Defence, *Joint Doctrine Note 2/19 Defence Strategic Communication: an Approach to Formulating and Executing Strategy,* pp. 6–7.
36 髙木耕一郎「新領域から『バトル・オブ・ナラティブ』へ」前掲。
37「富士山を世界遺産に、ユネスコ諮問機関が勧告、登録なら日本で 13 件目」、ブルームバーグ、2013 年 5 月 1 日。

典型的な情景であり、物理的に離れていても、日本人の精神性、芸術性においてつながっている「目に見えないリンクがある」（ナラティブ・モード）と主張した結果、勧告が覆り、三保松原も構成資産として認められることとなったのである[38]。

国家間関係に当てはめれば、相手側の行動を同じように非難するにしても、「○月●日の×という貴国の行動が、■■条約に反している」（論理実証モード）と述べるのか、「貴国の行動は我が国の重大な懸念であり、国際社会も支持しない」（ナラティブ・モード）と指摘するのかに応じて、自国の期待するような行動を相手国が採るか否かが決定するということである（当然、その双方のアプローチを併用する場合もあり得る）。

### （２）ナラティブは対象者の心理や認知領域に作用し、対象の行動を規定する

ナラティブは対象者の心理や認知領域に働きかけ、対象者の行動を規定する。国の指導者が有権者に働きかけ、様々な政策を推進する際には、このアプローチが用いられる。これは、単なる背景説明や記者会見ではなく、有権者による特定の政策への支持や投票行動に結びつけるという政治目標を備えた振舞いである。また、大規模災害や感染症の発生に際しての指導者によるスピーチや、成功や好況に繋げるための呼びかけもこれに含まれるだろう。確実性の観点からは限界もあるものの、ナラティブの作用により、概して対象となるオーディエンスが特定の行動を取るようになるのである。

近年、中国では「制脳権」と呼ばれる認知領域における優位性を確保するためのあらゆる取組が行われているとされる[39]。防衛研究所の『中国安全保障レポート』においても、中国による智能化戦争の目標の重点は「制智権」に置かれるとされ、「制智権」あるいは「制脳権」が主導権を握るための新たな争奪領域となり、人間の認知速度や認知の質の優勢を争う形となると指摘されている[40]。実際、最近も、中国の軍機関紙「解放軍報」において「認知対抗：将来戦の新領域」と題する特集記事が掲載されている[41]。ここでは、「人間の精神及び心理活動が構築する認知空間がまさに新たな作戦空間となりつつある」と指摘し、「将来戦は、物理空間、情報空間及び認知空間の３領域において同時に発生する」とする。

我が国におけるいわゆる海上優勢及び航空優勢と同様に、宇宙、サイバー、電磁波のほか、心理及び認知領域における優勢確保が、安全保障や防衛の観点からも重視されているのである。

### （３）ナラティブはフレーミング効果をもたらす

上述のとおり、ナラティブはディスコース及びフレームが含まれている。ある種のナラティブが形成された場合には、これを形成した者の意図が反映されるということである。

例えば、「一郎さんはなぜいつも遅れてくるのか？」とのナラティブは、一郎さんの遅れの原因を問うものであるものの、議論の起点が「一郎さん」が「いつも遅れる」ことに設定されている。言い換えれば、「一郎さんがいつも遅れる」という事実あるいはそのように話し手が主観的に考えることを聞き手に対して伝達し、聞き手にもこれを暗に受容させようとの意図がある。

国家間関係の場合、ある国の国営メディアが「日本はなぜ我が国の領土に固執するのか？」と報じた場合、日本の領土であるにもかかわらず、ある国の「領土」（ママ）であることを、既成事実として扱っていることが明確となる。

最近の例では、中国が新型コロナウイルスに関連して積極的な情報キャンペーンを展開し、新型コロナウイルスに関する世界的なナラティブを改変しようとしており、世界が中国を感染症の発信源ではなく感染症対

[38] 近藤誠一「世界文化遺産、富士山と三保の松原登録実現までの道のり」『経済同友』、2013 年 10 月号、17–18 頁。
[39] 土屋貴裕「ニューロ・セキュリティ 『制脳権』と『マインド・ウォーズ』」『KEIO SFC JOURNAL』第 15 巻第 2 号、2015 年、12–31 頁。
[40] 防衛研究所編『中国安全保障レポート 2021—新時代における中国の軍事戦略—』2020 年、15 頁。
[41] 李义「认知对抗：未来战争新领域」、解放军报、3 面、2020 年 1 月 28 日。

応の世界的リーダーであると見なすように企図しているとの指摘がある[42]。また、中国はコロナ外交によりナラティブを書き換えつつあると欧米が見ている点も報じられている[43]。

### （4）ナラティブには虚偽、事実誤認及び論理的矛盾が含まれることがある

ナラティブは元来、意味論的に構成されていることから、個別具体的な細部に及ぶ情報や真実よりも、時系列性、総体的な形態やプロット（筋書き）が優先される。また、ナラティブは実在性を主観化する特徴があるため、話題に登場する出来事や人物に関する語り手の主観も含まれる。こうして、意図的であろうとなかろうと、結果的に、ナラティブに虚偽や事実誤認、論理的矛盾が含まれることがあるといえる。

このようなナラティブの本質的な性質に加えて、国家間関係、特に外交、安全保障、防衛・軍事の場裏では、自国の国益増進を目的に、相手国に対して虚偽情報や欺瞞等を用いることも少なくない。近年では、冒頭の米大統領就任式に関する報道官の発言や大統領顧問による発言がこれに該当するほか、インターネットやメディアを通じた偽情報の流布などによる影響工作を複合的に用いた「ハイブリッド戦」もその好例である[44]。

また、2020 年 11 月に豪軍がアフガニスタンにおける民間人や捕虜に対する違法殺害行為について調査結果を公表した際、中国外務省の報道官が公式ツイッターで豪州を批判する際に、豪軍兵士が子どもの喉元にナイフを突き付ける偽造写真を添付したため、モリソン豪首相が謝罪を要求する事態に発展したことは記憶に新しい[45]。同報道官は 3 月にも「新型コロナウイルスは米陸軍が武漢に持ち込んだ」とツイートし[46]、国際的に批判が強まると「中国国民の怒りを反映したものだ」と弁解している[47]。

### （5）ナラティブは、感情の表出として扱われることがあり、共感や反感の前提となる

ナラティブは理性的にも感情的にもその態様を任意に変えることができる。上述の「ポスト・トゥルース」の時代にあっては、客観的な事実や科学的な裏づけよりも、個人的な感情や信念が重視され、聞き手（オーディエンス）による共感や反感を招く前提となる。ナラティブは必ずしも文章や言葉とは限らず、動画や映像がナラティブを構成する場合もある。

既存の研究によれば、コミュニケーション手段としての共感はクリントン元米大統領が述べたように「彼らの痛みを感じる」ことができれば、その人々のニーズと利益を代表していると見なされるのであり、トランプ米大統領もある特定のセクターの米国民の支持を活性化すべく感情と経験を読み取ることで、一定程度は成功したとされる[48]。

一方、新型コロナウイルスが広がる中、フィリピンに所在する中国大使館はフィリピン語で「一つの海」を表す「IISANG DAGAT」と題した動画を公開し、比中間の連帯を強調しようとしたところ、フィリピン国民からの大きな反発を受けた[49]。YouTube に公開されたこの動画は 2021 年 1 月 14 日現在、約 4,000 件の like に対して、約 22 万件もの dislike が寄せられている[50]。こうしたコメント欄に寄せられる声も、ナラティブを形成するのである。

---

42 “China’s Disinformation Effort Targets Virus, Researcher Says”, Bloomberg, 13 May 2020 [https://www.bloomberg.com/news/articles/2020-05-12/china-s-disinformation-campaign-targets-virus-and-businessman].

43 “China's coronavirus diplomacy is rewriting the narrative, as Trump and Europe watch”, NBC News Digital, 15 April 2020 [https://www.nbcnews.com/think/opinion/china-s-coronavirus-diplomacy-makes-trump-europe-look-bad-even-ncna1183776].

44 防衛省編『令和 2 年版　防衛白書―日本の防衛―』2020 年 7 月、41 頁。

45 “Scott Morrison demands apology from China over fake image”, The Australian, 30 November 2020 [https://www.theaustralian.com.au/breaking-news/china-posts-attack-on-australian-soldiers-after-war-crime-report/news-story/5a02e101306d2ab2b81e0d081aacf66e].

46 “Chinese Official Pushes Conspiracy Theory U.S. Spread Virus”, Bloomberg, 13 March 2020 [https://www.bloomberg.com/news/articles/2020-03-13/chinese-official-pushes-conspiracy-theory-u-s-army-behind-virus].

47 “China Spokesman Defends Virus Tweets Criticized by Trump”, Bloomberg, 7 April 2020 [https://www.bloomberg.com/news/articles/2020-04-07/china-spokesman-defends-virus-tweets-criticized-by-trump].

48 Claire Yorke, “The Significance and Limitations of Empathy in Strategic Communications”, *Defence Strategic Communications,* Vol. 2, p. 141.

49 “Chinese embassy's ‘Iisang Dagat’ tribute sparks outrage online”, CNN Philippines, 26 April 2020 [https://www.cnnphilippines.com/news/2020/4/26/Iisang-Dagat-tribute-video-sparks-outrage-online-West-Philippine-Sea.html].

50 “Iisang Dagat（海的那边）Official Music Video - A COVID-19 Tribute”, Chinatown TV, 23 April 2020 [https://www.youtube.com/watch?v=2E0yDvn0xiU].

## おわりに：ナラティブとは何か

本稿で取り上げた先行研究及びナラティブの特徴を踏まえれば、一般的にナラティブとは次のように定義できるだろう：

> *語り手が聞き手に対して意味を伝えるための、ある特定の目的を有する語り。時間的、空間的及び因果的な一連の出来事を踏まえて編み出される。形式は口述と筆記とを問わない。態様は理性的にも感情的にもなり得る。内容は必ずしも真実だけに限定されず、虚偽、事実の誤認、論理的矛盾を含むことがある。しばしば、語り手自身の主観、信念、価値観を伴う。*

そして、安全保障や防衛分野にとってのナラティブは、上述の戦略的ナラティブ等を踏まえれば、一般的に次のように定義できる：

> *政策上の目標に対して心理及び認知領域における正当性を付与するように、意図的に作成された物語。対象となるオーディエンスを誘導する目的を有し、現在の状況、将来の望ましい状況及びそこへの到達方法を含む。防衛分野では特に、既存の防衛力との組合せにより相乗効果を発揮する。*

これまでの研究を踏まえれば、「ナラティブを巡る戦い」（narrative warfare）は、既に始まっているともいえる。例えば中国は、「ナラティブを巡る戦い」の活用により、敵対者の主張を混乱させると同時に、東アジアにおける地域的覇権のための長期的戦略を国内外で補強することを目的としているとされる[51]。中国は国内外の世論を中国有利に導き、中国の拡張主義を支える情報基盤を築き上げるため、政治的ナラティブを武器として用いており、これは 2003 年に中国が採用した「輿論戦」、「心理戦」及び「法律戦」から成る「三戦」に該当し、その対象は東シナ海及び南シナ海であるとも指摘されている。

2021 年 1 月 13 日、米ホワイトハウスは『インド太平洋のための米国の戦略枠組み』に関する文書の秘密指定を解除し、部分開示に踏み切った。この中で、ナラティブという用語が次のように用いられていることを紹介し、本稿を締め括ることとしたい[52]：

> *“中国による地域的支配は避けられないというナラティブを打破する”*
>
> *‘puncture the narrative that Chinese regional domination is inevitable’*
>
> *米国家安全保障会議　部分開示文書　第 000174 号*
> *『インド太平洋のための米国の戦略枠組み』*

## 付　記：

脱稿後、所内研究者からナラティブと戦略的コミュニケーションの関係性に関する質問を頂戴した。例えば、前述の英国防省による戦略的コミュニケーションに関する統合ドクトリンにおいては戦略的コミュニケーションを「オーディエンスの態度、信念及び振舞いに影響を与えるコミュニケーションという手段として防衛組織を用いることにより国益を増進すること」（advancing national interests by using Defence as a means of communication to influence the attitudes, beliefs and behaviours of audiences.）と定義している[53]。戦略的コミュニケーションにおける原則の一部には、「戦略的ナラティブを戦わせなければならない」（Strategic

---

[51] Kevin Truitte, “China’s Narrative Warfare in East Asia”, Georgetown Security Studies Review, 7 February 2019 [https://georgetownsecuritystudiesreview.org/2019/02/07/chinas-narrative-warfare-in-east-asia/].

[52] The White House, *U.S. Strategic Framework for the Indo-Pacific,* declassified on 5 January 2021, p. 4 [https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2021/01/IPS-Final-Declass.pdf].

[53] The United Kingdom Ministry of Defence, *Joint Doctrine Note 2/19 Defence Strategic Communication: an Approach to Formulating and Executing Strategy,* op.cit., p. 4.

narratives must be fought）という項目が含まれている。これは、「防衛組織の行動、イメージ及び言葉は、信頼性を築き、維持するために関連する戦略的ナラティブと一貫性のある形で一致していなければならない。このイニシアチブを維持するためには、積極的で革新的なアプローチが必要となる。オーディエンスから懸命に確保した信頼性は保護されなければならない」（Defence's actions, images and words must consistently align with the relevant strategic narrative to build and maintain credibility. Maintaining the initiative will require a proactive and innovative approach. Hard-earned credibility with audiences must be protected）と明記されている[54]。

我が国における戦略的コミュニケーションに関する本格的な研究は緒に就いたばかりである。ナラティブに関する研究と合わせて、今後の更なる発展が期待される[55]。

（2021 年 1 月 15 日脱稿、同 25 日追記）

プロフィール profile

企画部企画調整課
長沼　加寿巳

専門分野：国際交流

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課
直　通：03-3260-3011
代　表：03-3268-3111（内線 29171）
ＦＡＸ　：03-3260-3034
※ 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.mod.go.jp/

[54] Ibid., p. 6.
[55] 戦略的コミュニケーションに関しては海上自衛隊及び航空自衛隊の各幹部学校において研究がなされているところ、代表的な先行研究としては次のとおりである。石原敬浩「米軍における“戦略的コミュニケーション”を巡る葛藤」『海幹校戦略研究』第 5 巻第 1 号（通巻第 9 号）、2015 年 6 月。石原敬浩「戦略的コミュニケーションと FDO―対外コミュニケーションにおける整合性と課題―」同上、第 6 巻第 1 号（通巻第 11 号）2016 年 7 月。味﨑利光「我が国の戦略的コミュニケーション(SC)の現状と今後とるべき方策について－防衛省・自衛隊を中心に－」『エア・パワー研究』第 6 号、2020 年 1 月。